

本来なら原田氏に代表していただくところ、年長者として私が筆を執ることに  
なり「汗出でて背をうるおす」気持ちで  
あり、思いつくまを記します。

さて今回、はからずも倉橋賞を受賞致  
しました。これは同じ分野で研究してお  
いの方たち全体への賞と心得ていま  
す。なぜならば、現在までに幼児体育に  
関する数多くのすばらしい研究があり、  
そのいずれもがあるいは表面的にあるい  
は深層において、有機的に時には弁証法  
的に関連していると考えるからです。い  
ずれにせよ研究に際して、研究者は、綿  
密であり、分析的であり、結果について  
は厳格でなければならぬことを痛感致  
しました。

そこで折角の紙面ですから僭越ながら  
私たちのグループの横顔をご紹介申し上  
げ、そこから私たちの意欲や態度等をご  
賢察いただき、今後ともご指導ご鞭撻賜  
われますれば幸甚に存じます。

私たち四人はいずれも三十歳前後の男  
性で最年長の私でさえ四十歳には間があ  
り、中のひとりとは独身（もともとこの秋  
結婚しますが）という、まことにファイ  
トに満ち溢れたグループです。加えて既

## 倉橋賞を受賞して

鈴木重夫

婚の三人は、園児あるいは就園前の子ど  
もを有し、しかもその子どもたちが男女  
ほぼ半数ずつといういわば恵まれた構成  
になっています。ジュエナーではありません  
せんが、私たちが幼児の測定をする時、

手近かでしかもあらゆる側面を明瞭に把  
握している子どもとして予備実験でき、  
かなりの確信をもって本実験をすること  
ができた理由のひとつも実はここにあっ  
たということが出来ます。

事実、私たちは多くの幼児の測定をし  
ましたが、その各々について測定数値は  
もちろん、それ以外に、諸側面をとら  
え、数値との関連についての考察を加え  
ながら進めていくことができ、信頼性の  
高い結果が得られました。まともに入っ  
てはよく会を開き、時には日曜日の朝早  
くから夜遅くまで鳩首して激論をしまし  
た。このような姿は、まこと、研究のた  
めの研究ではなく、真に幼児そのものの  
幸福を願ってこそそのものだとおもう  
思います。ずい分自画自讃めいたことにな  
りましたがごお許しいただき、おわりに本  
研究にあたりご協力いただいた諸賢兄弟  
に心から厚く御礼申し上げます。